

埋蔵文化財

市教育委員会では、かねてより市内各所の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）に関する調査等を実施しており、その成果を「美濃加茂市遺跡地図」として情報の蓄積や更新を随時おこなっています。それは、周辺を含めた分布調査や地下調査（試掘）結果等と併せ、包蔵地の照会や開発事業主がおこなう開発予定地における埋蔵文化財の有無の可能性を検討したり、予定されている工事内容が埋蔵文化財に与える影響を判断し、埋蔵文化財の保護と開発事業等の調整をはかっています。

平成17年度は、美濃加茂市開発事業指導要綱に基づく事前協議の対象となる1,000㎡以上の開発計画が

29件、同砂利及び岩石採取協議会で協議対象となったものが12件、包蔵地の照会が92件ありました。

そのうち、埋蔵文化財の遺存の可能性が考慮され、試掘あるいは工事立会について意見及び対応したものが41件あり、埋蔵文化財の保護に関する指導等をおこないました。また、市が所蔵する考古資料について、木ノ下遺跡（山之上町）の出土品によるデジタルアーカイブを作成しました。

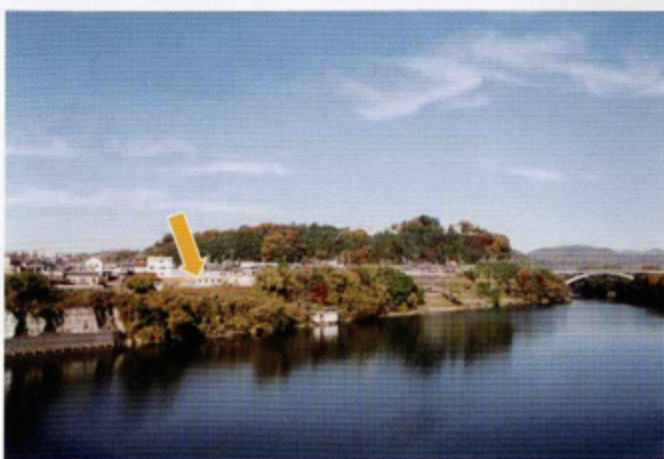
さらに、美濃加茂市民ミュージアムにおける展覧会や講座、小・中学校による学習活動への利用等により、一層の公開や活用を努めています。

しらべる

美濃加茂市浄水場拡張工事に伴う埋蔵文化財の調査（下り遺跡/森山町4丁目5番地内）

当該地は、飛騨川を望む南北に緩やかに延びた三角形に広がる低位段丘面上にあたります。当初、遺跡として知られていなかった場所でしたが、調査の結果、縄文時代中期、古墳時代後期、中世を中心とする住居跡等の遺構や遺物が発見されました。

現在、市内では140カ所以上の遺跡が周知されていますが、今回のように新たに発見される可能性は十分に考えられます。



青柳橋より調査地を望む



6号住居（北から）



調査区全景（西から）

みのかも文化財ノート

ひろめる

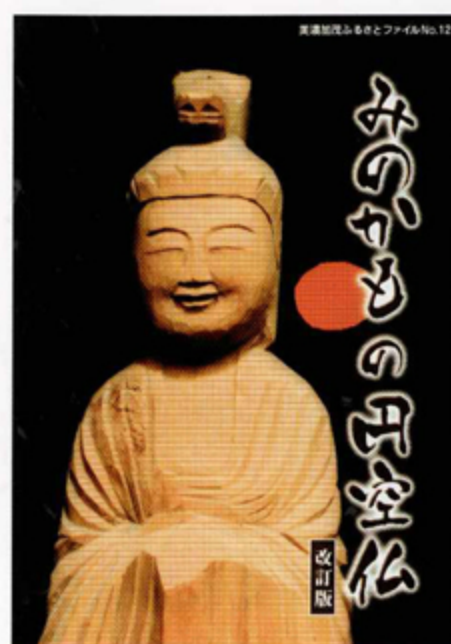
「廻国・円空ー加茂をとおりてー」展の開催



展示室様子

美濃加茂市教育委員会では、市内に残る貴重な文化財の保存・保護活動のほか、調査・普及活動をおこなっています。平成17年度の主な事業として、平成18年4月15日から公開する旧太田脇本陣林家住宅隠居家及び太田宿中山道会館の開館に向けての準備、円空仏や関連資料による展覧会の開催、埋蔵文化財をはじめとする各種文化財の保護管理・調査・普及事業等がありました。

みのかも文化財ノートは、市内の文化財に関連しておこなわれた様々な事業を紹介するものです。



江戸時代の僧侶・円空（1632～1695）は美濃国で生まれ、十二万遍造像を祈願し、全国を遊行しながら多くの仏像を制作したとされます。

飛騨街道をはじめ各方面からの主要な街道が交錯し、武儀や郡上方面とも交流があった加茂地域は、かつて円空が廻国をする際、何度も行き来し滞在した場所でした。そのため、初期のものから晩年のものまで、あらゆる時期の円空仏が各地に所在しています。

「廻国・円空ー加茂をとおりてー」展は平成18年2月4日から3月21日まで美濃加茂市民ミュージアムにおいて開催し、加茂地域（美濃加茂市・加茂郡）に所在する円空仏のほか、いまなお伝えられる「円空さん」の伝承やゆかりの地を紹介しました。

美濃加茂市には現在までに15体の円空仏が確認されており、そのうち7体が市の有形文化財に指定されています。また、円空に関する伝承がある三和町甘屋の観音洞円空窟は、市指定史跡となっています。市内の円空仏の多くは、いまま個人宅や自治会などで管理されており、信仰の対象として祀られています。

美濃加茂市民ミュージアムでは、今回の企画展にあわせ、市内の円空仏や円空の足跡をつづった、ふるさとファイルNo.12「みのかも円空仏 改訂版」を発行しました。

ひろめる

重文 旧太田脇本陣林家住宅隠居家の一般公開の準備

平成17年度は、同18年4月から始まる「隠居家」の一般公開に向けて、所有者や文化庁、消防署などと協議を重ねてまいりました。

また、同時に開催する「太田宿中山道会館」の展示室では、旧太田宿本陣東門が復原されるなど、旧太田宿に関する文化財や歴史資料が紹介されます。



隠居家の特別見学会の風景



標柱・案内板

ひろめる

市指定史跡 白隠禅師遺跡

臨済宗中興の祖といわれ、妙心寺第一座になった江戸中期の高僧・白隠禅師（1685～1768）は、正徳5（1715）年に市内山之上町岩滝山の山中で修行を重ねました。

白隠が修行したといわれる場所は、市指定の史跡となっており、今年度は標柱・案内板の修繕をおこないました。

まもる

文化財防火デー

昭和24年1月26日に、法隆寺金堂が焼損したことを教訓に、昭和30年から、同日を「文化財防火デー」として、全国的に文化財防火運動が展開されています。

市では、文化財を火災などの災害から守ることを目的とし、文化財を管理する方だけでなく、地域の方々や消防署をはじめとした関係機関の協力を得て防火査察を実施しています。今回は、重文旧太田脇本陣林家住宅の消防訓練や太寧寺（加茂川町）など5カ所の立ち入り調査をおこない、消防署からの指導を受けました。



消防訓練（旧太田脇本陣）

しらべる

県指定文化財 川合のムクノキ・山ノ上のサクラの視察・調査

平成18年2月16日、美濃加茂市文化財保護審議会において視察と調査をおこないました。

天候の悪い中でしたが、川合のムクノキ（川合町）、山ノ上のサクラ（山之上町）のこれまでの保存措置の状況や現在の様子を調査しました。



視察（川合のムクノキ）

しらべる

民俗技術「洗い張り」の公開及びビデオ撮影

美濃加茂市民ミュージアムでは、かつての暮らしの知恵や技術を調査するとともに、市民に体験してもらった講座を開催しています。

今回は生活体験ボランティアの協力をいただき、伸子張り（洗い張り）の公開及びビデオ撮影をおこないました。これは、着物をほどこいて水洗いをし、糊をつけて乾かし、再び着物に仕立て直す作業です。一着の着物を何十年も着るといふ、モノを大切に作る気持ちをうかがうことができました。

12月15日、美濃加茂市民ミュージアムにおいて実施
協力：大矢とし子さん、佐野綾目さん（ともに伊深町在住）



伸子張り

ひろめる

ふるさとファイルNo.11 『中山道太田宿』の刊行

中山道太田宿は渡船のある宿場として全国に知られ、「木曾のかけはし太田の渡し、碓氷峠がなくばよい」と詠われるほどの難所のひとつでした。

渡船関係の史料である「太田船頭屋敷安堵状（おおたせんどうやしきあんどうじょう）」や安藤広重画「木曾街道六十九次」の太田の場面、皇女和宮の通行時の史料など、太田宿の歴史や魅力について紹介しました。

